

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4092000100		
法人名	株式会社 伸宅		
事業所名	グループホーム 生き生き参番館		
所在地	福岡県柳川市三橋町蒲船津333-1 (電話)0944-72-7333		
自己評価作成日	平成 27 年 12 月 15 日	評価結果確定日	平成 28 年 2 月 23 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

住み慣れた柳川で利用者様らしい生活を安心して送って頂ける事を理念に掲げて、職員一同細やかな質の高いケアを目指している。ご家族との連絡を密にとり信頼関係を築くと共に、重度化しても少しでも長く利用者様らしく生活して頂ける様に訪問看護との医療連携でリハビリも含めて生活の質が保たれるよう努めている。また、地域の一員として毎朝、地区のお宮の外掃除を行っており、地域住民の方からの声かけも多く、近隣高校の実習生の研修を受け入れたりと、地域社会への貢献に努めている。朝礼では、外部からの接遇の研修をしていただいた社団法人が発行してある「職場の教養」の冊子に掲載されている一日一話を、毎朝職員へ朗読させ、接遇に対する意識づけを図っている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 28 年 1 月 22 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

利便性に富む新興住宅街にある事業所は西洋風の建物で明るく清潔で広々としている。敷地の中に花壇と菜園があり、季節を感じ、収穫を楽しんでいる。穏やかな表情の利用者が明るく元気な職員が支援する家庭的な雰囲気の中で暮らしている。管理者の骨身を惜しまぬ清掃活動が地域住民の信頼と理解に繋がりがつつある。事業所理念を掲げ日々ケアの実践に活かし取り組んでいる。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【1 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は目につくところに提示し、いつでも理解出来る様にし、職員全員で共有出来るようにしている。	理念について日常的に職員間で話し合い、管理者と職員は共有し意識して、理念を日々活かすように取り組んでいる。地域密着型サービス事業者の意義と役割を明確に認識しているパンフレットに理念を明示し、利用者や家族に説明を行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として生活出来る様に、区費を納め、町内会に加入しており、毎朝お宮の落ち葉拾い等の掃除を行ったり、日頃から散歩に出かけ地域の方と挨拶を交わしている。また近隣高校（福祉科）の実習生の研修を受け入れている。	町内会に加入し、町内の活動や行事に地域の一員として参加している。早馬神社・公園・事業所周辺の清掃を毎朝行っている。利用者との散歩時に地域の住民から感謝や労いの言葉をもらうなど良好な顔馴染みの関係を構築しつつある。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市の民生委員やボランティア団体・地区の社会福祉協議会の方々の施設視察や研修会を受け入れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を定期的に行い、利用状況、事業所の活動・運営・行事などの状況を報告し、推進メンバーの方より質問や意見をいただき、サービスの質の向上に活かしている。	定期的に運営推進会議を開催している。現在の取り組み状況や活動計画などを報告し、委員からの意見・要望をもらっている。もらった意見は運営や介護の質の向上に活かすように取り組んでいる。公園建設の折には、車椅子で利用できるトイレ設置の提案を行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の委員になって頂いており、欠席の場合は議事録を持参し、近況報告を行うようにしている。また、生保での利用希望者については、担当者の他にも保護課の担当者とも連絡・相談しながら検討している。	日頃から運営・保険制度の改正・申請などの相談を行い、アドバイスをもらっている。また認知症サポート養成講座の開催など共に取り組み、協力者としての関係づくりに努めケアサービスの向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で身体拘束について勉強会を開催し、理解を深めるように努めている。玄関は施錠せず、玄関のベルがなるようセンサーを設置しており、センサーが鳴ったら、すぐ玄関へ確認しに行く習慣を職員へ徹底し、常に見守りをし、安全確保に努めている。	身体拘束に関する勉強会を開催し、職員の徹底理解を図り、身体拘束のないケアを実践している。また外出の傾向の利用者は把握しており、職員間の見守りや連携プレーで対応し、利用者の自由な暮らしの支援に取り組んでいる。近所の人の理解もあり、見守り、声掛けの協力もいただいている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について研修会を行い、毎朝の申し送り時やケア会議等で話し合い、身体の虐待はもちろん、言葉の虐待についても職員一人ひとり自覚を持ち、お互いに注意する様に確認し合っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する外部研修会の資料を用いて伝達研修を行い、学ぶ機会を設けている。また、玄関に成年後見人制度のパンフレットを準備し、配布を行い情報提供を行っており、契約時にも利用者・御家族に説明をしている。	制度について勉強会を開き職員の理解を深めるように取り組んでいる。パンフレットは玄関に設置しており、対応が必要と思われる利用者が制度を活用出来るように体制は整えている。また制度に関して利用者・家族には契約時に説明を行っている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や料金改定の内容について疑問点を確認しながら、納得、理解していただけるよう説明している。同意が得られたら署名・捺印をいただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回の運営推進会議を開催し、地域の委員さんから意見を伺い施設運営を図っている。又、御家族には、面会時に状態報告を行うと共に意見や要望を伺い、その都度職員に伝え、より良い運営を目指している。	ご家族の来訪時に声掛けを行い、意見・気づき・要望などをもらえるように努めている。また利用者の日頃の暮らしぶりやその人らしい、生き活きた姿などの写真をホーム便りで伝え、面会時に話しやすい雰囲気を作るように心がけている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から職員の意見を聞き入れている。自己評価は全職員で取り組んでいる。又、朝の申し送りやケア会議等で問題提起を行い、意見や提案を出しやすい環境を作り話し合いながら運営に取り入れている。	管理者は職員の気づき・意見・要望などが言いやすい雰囲気や、現場職員からもらった意見を話し合い、ケアサービスや働く意欲の向上に取り組んでいる。また利用者・家族と職員の馴染みの関係を重視し、配置異動を必要最小限に抑えるように努めている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との話しやすい関係作りの為に、思いを聞く様にして精神的安定を図っている。また、年に2回自己評価を行い、目標を持つ事でケアの向上に繋がるようにしている。希望休や有給を利用し、働きやすい職場の環境作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用時、性別・年齢・宗教など個人的な事は重視せず、既婚者や出産育児中の職員や誰でも安心して働けるように職場の環境や条件の整備に努めている。また福祉や社会貢献に対する思いを評価する様にしてはいる。	採用は法人による、グループホームケアに適した人材を選考している。定期的に勉強会を実施している。資格修得に向けた支援や向上心を持ち、誰もが安心して働けるような労働条件を整えている。また介護や出産・育児中の職員の事情に配慮した対応が、勤務の継続、離職なしに繋がっている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権尊重は介護における基本とらえて事業所の理念として周知している。また、人権尊重に対する研修会を開いたり、日々の申し送りや会議の中でも職員全員が自らの事として捉える機会を設けている。	職員は人権に関する勉強会に参加し意識づけている。また常に利用者ひとり一人の人格を尊重し、配慮を行った対応を心がけている。代表者と管理者は、利用者や職員の人権が尊重される現場環境の整備に取り組んでいる。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	機会ある毎に外部研修へ参加し、内部への伝達研修を行う事で個々の力量の向上に努めている。また、法人内外共に積極的に研修の機会を設けて参加している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の中でも同業者の研修会へ参加し、交流の機会を持ち勉強会を開いている。また他施設の訪問や会合等へ参加することで意見交換を行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に訪問や面談を行い、不安な事や入居後の生活について、本人様とゆっくり話す時間を設けている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの導入時には、御家族と面談する機会を設けて話を聞くようにしている。御家族の気持ちを汲みながら関係作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた 対応に努めている	本人様や御家族と話し合い、意向を確認 した上で、他のサービス導入の方が良い と判断した場合には、他のサービスも検 討して本人様や御家族に説明している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを 共にする者同士の関係を築いている	利用者様と一緒に過ごす時間を多く設 け、本人様の生活歴や経験、情報を共有 し、常に尊敬の念を持ちながら、生活す る中で教えて頂く事や気遣って頂く事も 多く、信頼関係を深めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家 族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築い ている	本人様の日常の様子を面会時に報告し、 御家族と情報を共有している。また施設 行事には御家族の参加を促し、御家族と の交流の場が持てるよう努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出を通して、これまでの生活 や関係を尊重すると共に、地域の活動に積 極的に参加できるよう努めている。また 、友人知人の方の面会もあり、その方 へ昼食も同じ食事を提供し、1日を通し施 設で一緒に過ごされるといった馴染み の方との関係が途切れないよう支援して いる。	馴染みの店から毎年漬物を贈られたり、 美容室や買い物などに出掛けている。ま た自由にご家族と携帯電話で話されて いる。本人がこれまで大切にしてきた 馴染みの人や場所との関係が継続でき るように、また地域の知人や友人に訪 問してもらうように職員が支援に努 めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用 者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格、生活歴を考慮して利用 者様同士が個々にコミュニケーションを 図り、新しい関係を築いていくことが 出来るよう支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォロー し、相談や支援に努めている	退所されても面会に行ったりして様子を 伺うようにしている。また、御家族とも 話をして関係を断ち切らない付き合いを 大切にしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話の困難な方は、日頃の関わりの中で、本人様の喜びの表情をみながら汲み取り、意向の把握に努めている。	職員は日々の関わりの中で、また何気ない会話の中で思いや希望、意向の把握に努めている。以前独居だった利用者は、定期的に帰宅し自宅チェックを続けている。意思疎通が困難な利用者には、声のトーンや表情、行動等から推測したり家族や関係者から情報を得て、本人の思いを大切に、本人本位になるよう検討して支援している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の何気ないひと言から思い出話を広げることが出来るよう、御家族へ生活歴の確認を行い、情報収集を行っている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの生活パターンを把握することで、その方に合った援助を行っている。また見守りや傾聴を行い、心身状態の把握や行動レベルなどを見極め、残っている能力の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様の毎日の生活から出る言葉を大切にしながら、ニーズの把握に努め、本人様、御家族の意向を反映しながら、また職員間の情報収集を行い、個別具体的に介護計画を作成している。	本人・家族の意見や要望を踏まえて、担当者を中心に、全職員の気付きもいれ、本人本位の介護計画を作成している。3ヶ月毎定期的に、また利用者の状態に変化があればその都度、家族や主治医と相談しながら随時見直している。介護計画書に本人・家族から署名捺印をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録については現場職員が細かく記載するようにしており、また状態変化時は申し送りでも伝達し、定期的な会議を行うことで情報の共有とケアの見直しを行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院と連携体制を活かして、利用者様にとって受診が負担となる場合は往診していただき、その他の急な受診は職員で行っており、地域の美容室の利用等、その時々でニーズへの対応をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々の社会資源を出来る限り把握するように努め、買い物や地域行事への参加等、地域資源との関わりを重視している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、御家族の意思を尊重し、受診往診しやすい環境を整えている。御家族での受診が難しい場合は、こちらから受診の付き添いを行ったり、状況に応じ臨機応変に対応している。	本人や家族が希望するかかりつけ医への受診を支援している。往診希望の利用者は協力医や主治医と契約時に話し合っている。かかりつけ医との連携を密にし、情報を共有している。また通院介助の方法、情報伝達の方法については家族と話し合い合意している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に情報交換を行い、利用者様の異常時には、看護師へ相談し、受診の必要性の判断や助言を得ている。また、いつでも連絡の取れる体制になっている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院する際、本人様や御家族がストレスを軽減できるよう相談しながら、本人様に関する情報の提供やケアについて話し合っている。退院時はスムーズに退院できるよう病院、本人様、御家族と話し合い関係作りに努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	段階ごとに御家族やかかりつけ医との意向を確認し対応を行い、利用者様を尊重しながら支援を行っている。全職員で話し合い、最期までその人らしい生活ができるよう支援している。	事業所の対応方針があり明文化している。事業所が対応し得る最大の支援方法について利用開始時に、家族に説明している。利用者や家族の意向を大切にしながら、都度に利用者、家族、かかりつけ医、職員で話し合っ合意を図り、全員で方針を共有し、支援に取り組んでいる。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の状態の急変や事故発生等、予測できる所は職員、医療関係者と連携を取り、実際の場面で活かせる様、勉強会などを行い、知識や技術を職員で深めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施し、うち1回は消防署の協力を得て行い、1回は夜間を想定し行っている。運営推進会議で呼びかけ、地域の方と一緒にいき、協力体制を築いている。	マニュアルを作成し、年2回利用者とともに避難訓練を行っている。地域の協力体制については、運営推進会議で協力を呼びかけ体制を築いている。非常用備品・食料・飲料水等は事業所内2階の事務室倉庫に備蓄している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マナーに関する研修を行っており、利用者様の誇りやプライバシーを損ねないような声かけを行い、一人ひとり尊重した対応や支援に努めている。	職員は利用者の気持ちを大切にし、さりげないケアを心がけている。研修、ミーティング等で職員の意識向上を図っている。個人情報や守秘義務についても十分理解し、管理を徹底している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が言葉では十分に意思表示出来ない場合であっても、自己選択を尊重し、表情や反応をみながら希望や好みを把握して支援できるよう心掛けている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様の体調やペースを汲み取り、それに合わせた生活が出来るよう支援している。就寝や起床、入浴、休息等は本人様の希望に沿って支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの個性に応じて髪型やおしゃれを個別に支援している。衣類は季節、気候に応じ、一緒に選び、その方に合ったおしゃれを楽しんでいただく支援をしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の嗜好を把握しており、昼食時は職員も利用者様の間に入り会話をしながら一緒に食事をしている。食事の片付けは出来る方には食器の茶碗洗いを手伝っていただいております、本人様も自ら意欲的に行われている。	昨年10月より昼・夕の食事は、法人で、一括調理され運ばれている。おやつは職員と利用者と一緒に好み焼きなど手作りしている。またそれぞれの誕生日会には、本人の希望をリクエストしてもらい、利用者全員の楽しみになっている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を各個人別に把握しており、毎食摂取量を記録し、職員間で情報を共有している。食事の形態や器への工夫を行い、摂取量、栄養の過不足が生じないように支援している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを励行している。義歯洗浄や歯磨きに関しては、セッティング、声かけ、見守りなど、利用者様に合った支援を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿便意の訴えにてトイレ誘導を行っている。訴えない方は、排泄パターンやその方のサインを把握して、トイレ誘導やオムツ交換を行っている。	自尊心に配慮しながら、身体機能に応じて前誘導や歩行介助している。紙パンツやパット等本人にあわせて検討し、習慣を活かして、トイレで排泄できるよう自立に向けた支援を行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘ぎみの方には、牛乳やヨーグルトを摂っていただき、レクレーションで身体を動かす体操や散歩を行い、排便を促す支援を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴回数、曜日や時間は柔軟に対応しており、拒否される方には時間帯や職員を代えて対応している。シャンプー等は、それぞれの種類を使用されており、入浴時には職員とゆっくり会話したり、入浴剤使用などにより入浴が楽しめる工夫をしている。	入浴は午前・午後希望があれば、いつでも入浴可能にしており、毎日入浴する利用者もいる。1日おきの入浴者が多いが、個々に浴った入浴の支援をしている。入浴拒否の利用者には、タイミングや言葉かけの工夫で柔軟に対応している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を増やし、夜間の睡眠に繋がるよう努めている。夜間眠れなかった方や、その方の体調、体力に応じて休息を取って頂けるよう支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服用している薬の内容を把握することで、利用者様の症状や変化に気づけるようにしている。また、医療関係者へ情報提供し服薬調整を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を基に本人様の得意な事、好きな事等をレクレーションや役割の中に取り入れている。買い物やドライブ、散歩等も、気分転換して頂けるよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は日常的に散歩を行っており、季節の花見等のドライブに出掛ける事も多く、スーパーへの買い物支援も行っている。また、御家族と遠出の外出をされる方もおられ、御家族と協力して外出支援を行っている。	天候や、利用者の体調、希望に応じて日々散歩、家族協力による外食支援、買い物・ドライブは計画に行っている。初詣、四季の花見、さげもん祭りに出掛けるなど、積極的に外出している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる方は、本人様が所持されている。金銭の管理が困難な方は、御家族から預かっており、施設で管理し、本人様が必要な物や希望する物は預かり金で買い物している。出納帳をつけ、御家族に確認していただき、サインをいただいている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方もいらっしゃる、本人様自ら自由に電話されてある。手紙や切手の購入の希望もあり、本人から手紙が出せるよう支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く明るく、湿度や温度にも配慮し、加湿器設置や天井にはプロペラがあり、その時々で空調を調整している。手作りカレンダーや行事の写真、季節に応じた飾り付けを行ったり、季節感を感じてもらおうよう工夫している。	共用空間は天井が高く開放的でソファが程よく配置され、利用者同士ゆっくり寛げる居場所が確保されている。壁には利用者と職員が協働製作した季節の花のちぎり絵や日常のスナップ・誕生会・イベント写真を掲載している。リビングから直ぐ出れるテラス、自然いっぱいの景色、不快な音や光もなく居心地よく過ごせるような工夫をしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先や廊下、庭等にソファやベンチを置いて気の合う利用者様同士、おしゃべりを楽しんだり、独りのんびりと外の景色を眺められるよう思い思いに過ごせるよう工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の馴染みのある家具や寝具等を持参していただいている。また、テレビや冷蔵庫等の家電も利用可能であり、居室で居心地良く過ごして頂けるよう支援している。	居室の表札には、ネームの上に可愛い花を添えている。使い慣れた馴染みのタンスや鏡台、写真や思い出の品を持ち込み、好みのものを活かしてそれぞれ安心して過ごせるよう工夫している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで車椅子を使用されている利用者様でも日常動作が安全に安心して行えるよう家具等の配置を工夫し、スペースを確保している。またトイレや浴室の表示を分かりやすくする事で、認識間違いを防げるよう工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：32, 33)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【 I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は目につくところに提示し、いつでも理解出来る様にし、職員全員で共有出来るようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として生活出来る様に、区費を納め、町内会に加入しており、毎朝お宮の落ち葉拾い等の掃除を行ったり、日頃から散歩に出かけ地域の方と挨拶を交わしている。また近隣高校（福祉科）の実習生の研修を受け入れている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市の民生委員やボランティア団体・地区の社会福祉協議会の方々の施設視察や研修会を受け入れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を定期的で開催し、利用状況、事業所の活動・運営・行事などの状況を報告し、推進メンバーの方より質問や意見をいただき、サービスの質の向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の委員になって頂いており、欠席の場合は議事録を持参し、近況報告を行うようにしている。また、生保での利用希望者については、担当者の他にも保護課の担当者とも連絡・相談しながら検討している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で身体拘束について勉強会を開催し、理解を深めるように努めている。玄関は施錠せず、玄関のベルがなるようセンサーを設置しており、センサーが鳴ったら、すぐ玄関へ確認しに行く習慣を職員へ徹底し、常に見守りをし、安全確保に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について研修会を行い、毎朝の申し送り時やケア会議等で話し合い、身体の虐待はもちろん、言葉の虐待についても職員一人ひとり自覚を持ち、お互いに注意する様に確認し合っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する外部研修会の資料を用いて伝達研修を行い、学ぶ機会を設けている。また、玄関に成年後見人制度のパンフレットを準備し、配布を行い情報提供を行っており、契約時にも利用者・御家族に説明をしている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や料金改定の内容について疑問点を確認しながら、納得、理解していただけるよう説明している。同意が得られたら署名・捺印をいただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回の運営推進会議を開催し、地域の委員さんから意見を伺い施設運営を図っている。又、御家族には、面会時に状態報告を行うと共に意見や要望を伺い、その都度職員に伝え、より良い運営を目指している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から職員の意見を聞き入れている。自己評価は全職員で取り組んでいる。又、朝の申し送りやケア会議等で問題提起を行い、意見や提案を出しやすい環境を作り話し合いながら運営に取り入れている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との話しやすい関係作りの為に、思いを聞く様にして精神的安定を図っている。また、年に2回自己評価を行い、目標を持つ事でケアの向上に繋がるようにしている。希望休や有給を利用し、働きやすい職場の環境作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生ききとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用時、性別・年齢・宗教など個人的な事は重視せず、既婚者や出産育児中の職員や誰でも安心して働けるように職場の環境や条件の整備に努めている。また福祉や社会貢献に対する思いを評価する様になっている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権尊重は介護における基本ととらえて事業所の理念として周知している。また、人権尊重に対する研修会を開いたり、日々の申し送りや会議の中でも職員全員が自らの事として捉える機会を設けている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	機会ある毎に外部研修へ参加し、内部への伝達研修を行う事で個々の力量の向上に努めている。また、法人内外共に積極的に研修の機会を設けて参加している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の中でも同業者の研修会へ参加し、交流の機会を持ち勉強会を開いている。また他施設の訪問や会合等へ参加することで意見交換を行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に訪問や面談を行い、不安な事や入居後の生活について、本人様とゆっくり話す時間を設けている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの導入時には、御家族と面談する機会を設けて話を聞くようにしている。御家族の気持ちを汲みながら関係作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様や御家族と話し合い、意向を確認した上で、他のサービス導入の方が良いと判断した場合には、他のサービスも検討して本人様や御家族に説明している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、本人様の今出来る事を見極め反映しながら、共に支え合える良い関係作りに努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの出来事や気づきの情報を御家族と共に共有し、本人様と一緒に支える為に、より良い関係が築けるようにしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友人、知人の方々には来訪の際、遠慮なく面会出来るよう働きかけている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士のコミュニケーションを大切にしており、日中は一人で過ごすのではなくリビングで他利用者様やスタッフと過ごし、良い関係が保てる様、見守り支援を行っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても面会に行ったりして様子を伺うようにしている。また、御家族とも話をし、関係を断ち切らない付き合いを大切にしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の日々の言動、表情を観察し、その中で一人ひとりの思いや希望を把握できるように努めている。利用者様に関する新たな気づきは連絡ノートに記入し情報を共有できるようにしている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様との日々の会話の中や御家族より情報収集を行うことで、日常の支援に繋げている。また、記録に残すことでスタッフ同士情報を共有し、統一したケアへと繋がられるよう努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活歴を踏まえた上で今の心身状態に合わせた支援を行っている。日々状態観察を行い、どうすれば残存能力を生かした支援ができるか考えながら、状態把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様の毎日の生活から出る言葉を大切にしながら、ニーズの把握に努め、本人様、御家族の意向を反映しながら、また職員間の情報収集を行い、個別具体的に介護計画を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録については現場職員が細かく記載するようにしており、また状態変化時は申し送りでも伝達し、定期的な会議を行うことで情報の共有とケアの見直しを行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院と連携体制を活かして、利用者様にとって受診が負担となる場合は往診していただき、その他の急な受診は職員で行っており、地域の美容室の利用等、その時々でニーズへの対応をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々の社会資源を出来る限り把握するように努め、買い物や地域行事への参加等、地域資源との関わりを重視している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、御家族の意思を尊重し、受診往診しやすい環境を整えている。御家族での受診が難しい場合は、こちらから受診の付き添いを行ったり、状況に応じ臨機応変に対応している。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に情報交換を行い、利用者様の異常時には、看護師へ相談し、受診の必要性の判断や助言を得ている。また、いつでも連絡の取れる体制になっている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院する際、本人様や御家族がストレスを軽減できるよう相談しながら、本人様に関する情報の提供やケアについて話し合っている。退院時はスムーズに退院できるよう病院、本人様、御家族と話し合い関係作りに努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	段階ごとに御家族やかかりつけ医との意向を確認し対応を行い、利用者様を尊重しながら支援を行っている。全職員で話し合い、最後までその人らしい生活ができるよう支援している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の状態の急変や事故発生等、予測できる所は職員、医療関係者と連携を取り、実際の場面で活かせる様、勉強会などを行い、知識や技術を職員で深めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施し、うち1回は消防署の協力を得て行い、1回は夜間を想定している。運営推進会議で呼びかけ、地域の方と一緒にいき、協力体制を築いている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりの人格を尊重し、個々に応じた対応を行っている。馴れ合いな言葉遣いにならないよう利用者様を尊重し、敬意を持って支援を行っている。また、さりげない声かけ等、プライバシーにも配慮している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との日々の会話の中で思いや希望を探ったり、一人ひとりが自分で決定できるように働きかけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様の意思で行動できるよう声かけを行い、一人ひとりのペースに合わせてその日の体調や気持ちに配慮しながら支援を行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容室より来ていただき、その人らしい身だしなみができるよう本人様に希望を聞きながら利用していただいている。なかには、馴染みの美容室へと通われ、おしゃれを楽しまれている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬な食材を使用したり、敬老会やお正月には行事食を提供している。また、個々に合わせて食事の準備や後片付けを一緒に行い、食事も利用者様と一緒に会話しながら行うことで、食事が楽しみなものとなるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量をチェック表に記入し、情報を共有している。食事量の少ない方には嗜好品を用いて摂取していただいたり、水分量が少ない方には、コーヒーやジュース、ゼリー等を提供し、水分の確保に努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には必ず口腔ケアの声かけを行い、一人ひとりの力に合わせて介助したり、うがいの困難な方には口腔スポンジやガーゼを使用し、口腔内の清潔保持に努めている。また、義歯の方は毎日1回、ポリドント洗浄を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレの案内の声かけや誘導を行い、失敗の回数を減らし、できるだけトイレでの排泄が出来るようにしている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い食材やヨーグルトを摂取して頂いたり、レクリエーションで運動を取り入れたりと自然排便を促すよう心掛けている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	概ね予定は立てているが、その時の本人様の希望や状態に合わせていつでも変更できるようにしている。一人ひとりの入浴を楽しんで頂けるよう、ゆっくりと入りたい方や毎日入りたい方等、希望に応じて個々の希望に沿った入浴の支援を行っている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活状況を把握し、体調や希望に応じて自由に休息して頂いている。夜間安眠できるよう日中適度な活動を促し、生活リズムを作れるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服用している薬の内容を把握することで、利用者様の症状や変化に気づけるようにしている。また、医療関係者へ情報提供し服薬調整を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活歴や能力に応じた役割を持って頂けるような場を作り、日々楽しみながら、その人らしい生活をして頂けるよう支援している。また外出や行事等に参加して頂き、気分転換の支援を行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その季節に応じた花見やドライブの計画を立て外出支援を行っている。天気が良い日には散歩に出掛け、外出の機会を増やし気分転換を図れるよう支援している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様で金銭を所持されている方もおられ、買い物等困難な場合は支援している。管理が困難な方は、御家族に相談し、こちらで預かり、本人様の希望時にいつでも使用できるようにしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば、いつでも電話をしたり手紙のやりとりが出来るようにしている。利用者様の中には携帯電話を所持されている方もおり、友人や御家族とコミュニケーションを図られている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様一人ひとりの感覚や価値観を大切にしながら共用の空間が居心地良く過ごせるよう光や音、温度に配慮して居場所を変えたりしている。また、花を飾ったり壁飾りをし、季節を感じて頂けるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同の場所は本人様の好きな所に座っていたいたり、自由に行き来ができる空間があり、気を遣われないように配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みのある物を持ってきていただき、できる限り自宅に近い雰囲気となるよう御家族に協力していただいている。タンスやベッドも本人様の使いやすい位置に設置している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室やトイレの前には分かりやすく大きな文字で表示している。また、トイレは3ヶ所あり、車椅子の方でも使用しやすいよう広く作られている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない